

兵所を出たとたん、小銃弾に当たってばったり路上に倒れた。すぐ抱き起こして、しっかりせよと励ましたのが、わしにかまわず戦闘してくれとの言葉を残して息を引きとった。

そうだ、早く戦車のことを報告しようと、中隊事務所へ戻ったら、ここでも青野小隊長、山崎中隊長が目と胸にそれぞれ弾丸をうけて倒れていた。それでも敵の戦車のことを報告したら中隊長は「肉薄攻撃班を編成せよ」と命令された。「だれももういません」とも答えられず「はい」と答えてその場を去った。もうこれが最後だと覚悟を決めてから落ちて着いてきた。

砲弾音もだいぶ遠のいた感じがしたとき、今度は陣地から友軍の戦車がきた、と伝令が連絡してきた。しめた、もうこれで助かった、と思った。時刻もかれこれ午後四時ごろになった。この時の戦闘で丸山中尉以下多数の犠牲者が出たうえ、田村部隊長も抜刀されて敵中へ切り込まれたのであった。

それにしても、この時ほど、この世の定めというか、前世からの因縁というか、はかり知れない運命というも

のを感じさせられたことはなかった。と同時に、戦争の悲惨さを思い知らされた。

自分は池田一等兵の位置に一刻早く行けば、また木村兵長の位置に一刻早ければ、あるいは衛兵所を出るのが一刻遅ければ、今一つ九六の軽機が三〇発出ていたら、敵の標的となっていたかも知れない。また新名兵長が引上げ時を誤れば我々の命も洋青墟の露と消えたかも知れなかったのである。

心から戦死された方々のご冥福をお祈り申し上げます。

私の戦中戦後

石川 梶島 喜左衛門

昭和十五年一月二十四日、臨時召集のため輜重兵第九聯隊第二中隊に編入、二等兵となる。同年二月二十九日、第三陸上輸卒隊転属のため三月二日宇品港出発、同七日塘沽港上陸、同月九日北支に到着した。

直ちに第九師団第三陸上輸卒隊に編入、同年八月一日

付で一等兵に進級、同年九月十日陸支機密第一四八号および総三二第一二二九号により第十五野戦航空廠に転属。

昭和十六年二月十七日上等兵を命ず。同十七年三月一日陸軍兵長を命ず。昭和十六年度陸支機密第一一四号に

より八月一日隼第二三七一部隊に転属、同日栄第九八八五部隊に配属、昭和十五年九月十日より昭和十六年十二月七日まで北支那にありて支那事変勤務に従事。

昭和十七年陸支機密第二二号により七月二日第二三七三部隊に転属、同日栄第九八八五部隊に配属。

昭和十七年九月一日下士官勤務を命ず。昭和十六年二月八日より昭和十八年一月十四日まで第九八八六部隊にありて大東亜戦争および支那方面勤務に従事す。昭和十五年陸支機密第二五四号第三十四条により西部第九五部隊に転属の命あり。

昭和十八年一月十四日北京陸軍病院に急病のため入院、同年二月二日治癒退院。同日より帰還兵舎にて下士官勤務に従事す。同月十八日北京出発、十九日山海関通過、同二十一日安東通過、同二十三日釜山出発、同日下関上陸、同二十四日西部第九五部隊本部に到着し、部隊長今

西少将閣下に申告、同月二十七日召集解除となる。

褒 賞 昭十五年四月二十九日支那事変の功により勲八等瑞宝章授賜、あわせて支那事変従軍記章を授与される。

善行証書 昭和十八年二月二十四日善行証書付与。
適任証書 昭和十八年二月二十四日兵科下士官適任証書付与。

以下戦記を記す。

昭和十五年九月野戦航空廠転属、まもなく戦闘機補給命令にて南苑航空廠より大原分遣隊まで飛行機六機分の補給任務で部下一名とともに大原に向け出発。

途中「せいけい」駅手前で河北省から山西省までの中間に、石太線最大の難所で険しい山岳地帯を抜けねばならぬか所がある。先に出発した貨物廠の貨車のごとくは破壊されて、軍需品のすべてが奪われ、幸願者は全員戦死した個所です。

機関車は横転して炎上、貨車も全車両焼きつくされており、車輪と鉄部のみが残っていた。

自分たちはそこを無事通過して娘子関に到着。鯉登り

の滝が何も知らずに美しい流れを彩っています。そこは八路軍が山岳上に常駐していて獲物を狙っている場所です。汽車が速度をゆるめねば車両の側面がえぐり傷つく狭さです。

昭和十六年塘沽分遣隊当時、天津港に陸揚げされた航空機材の見積り・積載に関するすべての任務を帯びて天津貨物廠に出張した。広場に所せましとばかり何百個所にも分けて置いてある機材を見て、大変な任務だと思っただ。上等兵に進級したばかりの素人に等しい自分が見積もった貨車数量九七両です。早速に貨物廠に行きその旨を述べて手配を申請した。

あまりのことに貨物廠長の中佐殿が出てきて「馬鹿この非常時に航空隊だけに九七両の貨車が右から左に集まるか」と大一喝を食いましたが、自分も身分は上等兵とはいえ作戦上の任務ゆえ、一步も引くことはできません。精いっぱい反抗するつもりで「デハヤメマスカ」とどなり返した。上等兵が中佐殿に対する態度ではありませんが、自分も任務上ですから本当に精いっぱい建言です。すると少佐殿が私の肩を叩き「航空隊さん分かったから

現場に持っていきなさいよ」といつてくれました。一日に九七両もの積載、それに要する作業人はみな中国人労働者ゆえチェックを要するから、地区司令官の大木大佐部隊と憲兵隊に依頼して無事任務を果たしたときは、立っている気力もないくらい疲れました。

さらに兵長の時の十七年十二月中旬、二五〇^{*}爆弾および一〇〇^{*}焼夷弾とガソリン輸送のため部下二人を連れて南苑航空隊より出発した。翌朝創見駅に到着、ほっとする間もなく最後部の貨車三両、展望車一両の四両が脱線転覆した。朝霧が立つ静かさを破る衝撃音で、私は事故確認と手配のため急ぎ現場確保に当たり、駅詰めの憲兵上等兵に事後処理できるよう協力を要請した。

一番先に到着した部隊に検問の歩哨配置、残余の無事な貨車を一刻も早く出発させること、同時に自分の本隊および南京分遣隊に事故発生時の電文を打つなどの手配をする一方、事故車両の除去と積み替え作業の段取り、クリーの人数の確保に専念した。部隊長も爆弾と分かり恐る恐る近寄る始末で、作業するクリーたちを納得させるのに時間がかかった。

この問題は事故もさることながら、責任のなすり合いでなかなか証明書を渡してもらえず、ついに事故発生から何十時間経ても埒があかず午前一時、会議室に行き列車の出発を申し出た。自分では朝五時からの作業指示や何から何までの指揮による心労、疲労は想像以上のものだった。

話は前後するが、昭和十六年六月十六日に内地では隣県新湊市の大火があったのを新聞で知った。私は五円を見舞金として送金しましたが、当時新聞紙上に報じられ感謝状が南苑の部隊まで届き、嬉しかったのも思い出の一つです。

また、人の運と不運は紙一重と申しますが、私ら同年兵で下士官勤務を果たし、先の部隊長が任官を指示して申し送ったのに、後任部隊長が身長の低さを理由に、ついに任官できぬまま八人は今日に至っております。

十八年二月二十七日除隊になり四月二十六日会社に復職、同年五月十日、私立青年学校指導員を命ぜられ、終戦までその任にあった。

終戦を迎え、十月十日ごろ連合軍マーケット少将より

小学校長あてに「国土復興のために早急に青年団を結成せよ」との通達があり、私に指名が回ってきました。

早速同年代の心当たりの方に呼び掛け、街の復興に関する初会合を開きました。最初に何から手を付けるか相談したところ、荒れ果てた小学校の修理を冬がくるまでにやろうということになり、直ちに作業を開始した。気がついた時、私は泣いていました。この時、日本の再起は意外に早いと確信、私はこの日を日本復興の日と決めております。昭和二十年十月二十日は日本再建を果たす記念すべき私の日です。

戦争体験記

埼玉県 守谷 昌平

昭和十六年徴兵検査により第二乙種合格となり、農業に従事しながら在郷軍人として郷土のために働いた。日中戦争はますます戦線が伸び、ついに大東亜戦争となった。